



# 株式会社ウェッジホールディングス 2010年12月 事業説明会

2010年12月21日

株式会社ウェッジホールディングス  
代表取締役社長 田代 宗雄



# CONTENTS

- 当社の概況
  - 会社概要
  - これまでのあゆみ
  - 主要グループ会社の構成
  - 事業領域と主要事業のご紹介
- 2010年9月期業績と財務状況
  - 2010年9月期 連結経営成績(P/L)
  - 連結業績の推移
  - 2010年9月期 連結財務状況(B/S)
- セグメント別業績と事業トピックス
  - セグメント別売上構成
  - 投資育成事業の収益貢献
  - ファイナンス事業の躍進
  - Group Leaseの強み
  - ファイナンス事業の業績
  - コンテンツ事業・物販事業の再編
  - コンテンツ事業・物販事業の経営成績

- 事業方針と取り組みのご紹介
  - 事業方針
  - 東南アジア:タイ国内リース営業地域の拡張
  - 国内新規事業:スポーツ関連事業に参入
  - 事業育成:邦楽市場で独自の展開
  - 電子書籍・配信市場での挑戦
  - 日本橋に新オフィスを移転開設
  - 当社グループの課題について
- 業績予想と株主還元について
  - 2011年9月期(第10期)の連結業績予想
  - 今後の事業拡大イメージ
  - 株主還元に関する方針



A stylized, semi-transparent blue globe with a grid pattern, showing the outlines of continents, serves as the background for the slide.

## 当社の概況

## 会社概要

- 会社名: 株式会社ウェッジホールディングス  
(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)
  - － 設立: 2001年10月
  - － 資本金: 1,839,143,700円
  - － 上場市場: JASDAQ グロース
  - － 代表者: 代表取締役社長 田代宗雄
  - － 本部事業所: 東京都中央区日本橋本町1-9-4  
Daiwa日本橋本町ビル
  - － 従業員数 302人(うち海外220名)  
※グループ全体・2010年9月末時点
  - － グループ会社
    - ・ 国内子会社 株式会社 ラディクスモバニメーション  
株式会社 Pepto One Nutrition(2010年10月子会社化)
    - ・ 海外子会社 Group Lease PCL(タイ 証券取引所一部上場)  
Engine Holdings Asia PTE(シンガポール)

## これまでのあゆみ

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
  - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場  
(現JASDAQ)に株式上場
  - » 翌年につけ、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大
- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングス  
として持ち株会社に移行
  - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
  - » 2007年9月期まで3期連続の赤字が続く業績低迷期に
  - » 2007年9月 第三者割当増資により東南アジアに展開する投資会社APFグループ  
が筆頭株主に
- 2007年12月 経営体制を刷新、改革に着手
- 2008年11月 2008年9月期、黒字転換
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社  
Group Lease PCLを連結子会社化、ファイナンス事業に進出
- 2010年3月 映画・映像事業子会社を売却、同事業から撤退
- 2010年7月 コンテンツ事業・物販事業子会社を吸収合併
- 2010年10月 スポーツ関連事業を行なう(株)Pepto One Nutritionを子会社化



## 主要なグループ会社の構成

- ・東南アジア、タイ・シンガポールへと事業領域を拡大
- ・国内は既存子会社の吸収合併でシンプルな事業体に



Group Lease PCL  
タイ・ファイナンス事業

↑ 48.58%保有



**ENGINE**  
Holdings **ASIA**

Engine Holdings Asia PTE 100%保有  
シンガポール  
投資育成事業

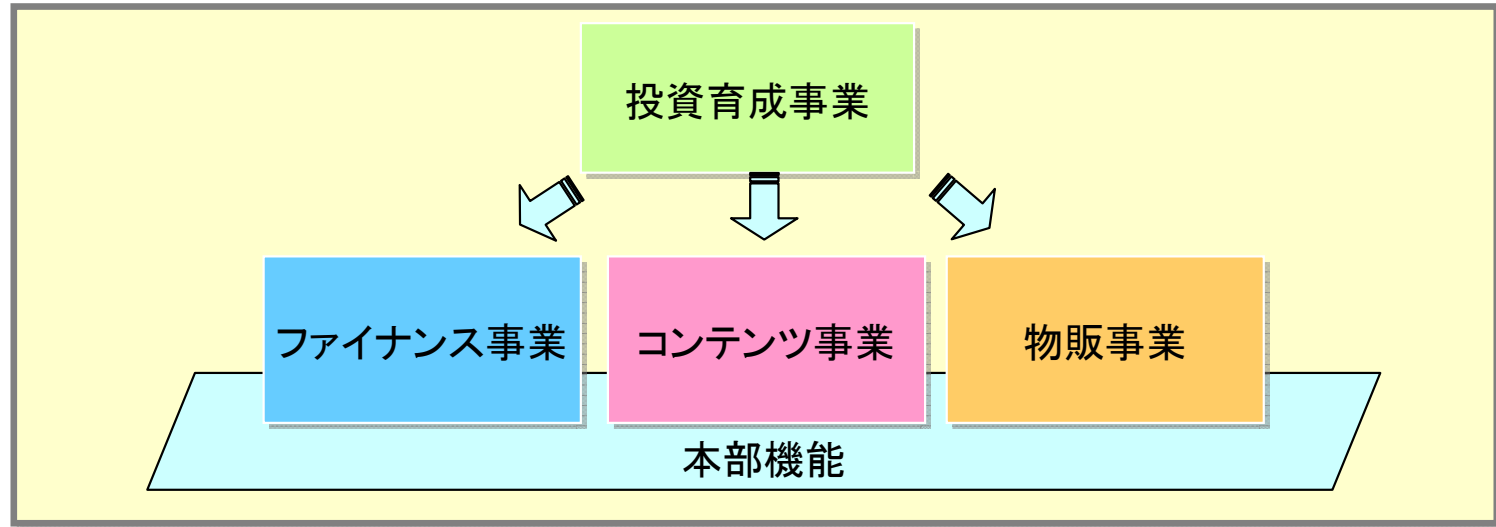


株式会社  
ウェッジホールディングス  
投資育成・コンテンツ・物販



# 事業領域と主要事業のご紹介①

- 4つの事業セグメント



- ◆投資育成事業

- ー Engine Holdings Asia PTE・投資事業部(ウェッジホールディングス)  
日本およびシンガポールを拠点に投資事業を展開、投資収益に加え  
グループの成長をにらんだM&A活動を担う

- ◆ファイナンス事業

- ー Group Lease PCL  
タイにおいてオートバイリース事業を営むGroup Lease PCLによる事業  
2009年7月より子会社化

## 事業領域と主要事業のご紹介②

### ◆コンテンツ事業

#### ーゲームクリエイティブ事業部

トレーディングカードゲームの開発・制作から、ゲーム攻略本制作等ゲームに関する事業ノウハウを蓄積。大手ゲーム会社や大手出版社などの顧客に対し、高品質のコンテンツを提供

#### ーブレインナビ事業部

出版業界から広くホビー、エンターテインメント系の書籍、雑誌等の制作を請け負い、コンテンツを提供する大手制作プロダクション。

当社の創業事業として多くの顧客から高い信頼を維持。

新規事業として電子出版、配信、コミック出版なども手がけ

新領域の開発にも注力。

#### ースピニング事業部

株式会社スピニングを2010年7月吸収合併。

洋楽のインディーズレーベルにおいてガールズロックなど独自の領域を開拓した音楽レーベル。2010年邦楽領域にも進出。

### ◆物販事業

#### ーエンジン事業部

株式会社エンジンを2010年7月吸収合併。

アメリカントイの国内正規輸入代理業に加え、店舗・ネットでの小売を手がける。卸売・小売に加え独自商品の開発、OEMなど領域を拡大中。



A stylized, semi-transparent blue globe with a grid pattern, showing the outlines of continents, serves as the background for the slide.

# 2010年9月期 業績と財務状況

## 2010年9月期連結経営成績(P/L)

(単位：千円)

|        | 2009年9月期  | 2010年9月期  | 増減        | 対前期比   |
|--------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 売上高    | 2,417,459 | 3,699,833 | 1,282,374 | 153.0% |
| 営業利益   | 137,362   | 802,506   | 665,144   | 584.2% |
| 経常利益   | 322,026   | 761,444   | 439,418   | 236.5% |
| 四半期純利益 | 204,089   | 369,524   | 165,435   | 181.1% |

|                    | 2009年9月期 | 2010年9月期 | 前期比較   |
|--------------------|----------|----------|--------|
| 一株あたり四半期純利益        | 1,673.25 | 1,597.52 | -4.5%  |
| 潜在株式調整後一株あたり四半期純利益 | 1,627.39 | 1,418.68 | -12.8% |

- ・ファイナンス事業のフル連結が寄与、売上高は前年比1.5倍に
- ・前年比で営業利益は5.8倍、経常利益は2.3倍と飛躍的な伸張
- ・当期純利益は、ファイナンス事業の少数株主持分の流出により、見通しを下回る結果となるも前年比では1.8倍に

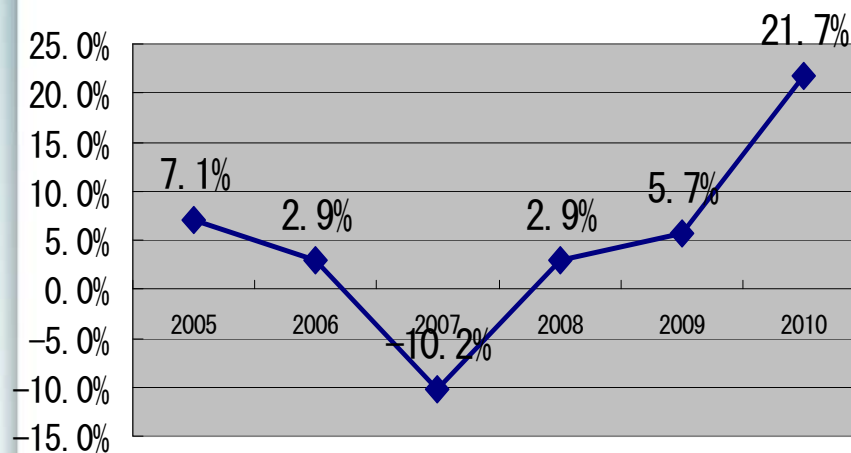
**ファイナンス事業が業績向上の最大要因に**

# 連結業績の推移

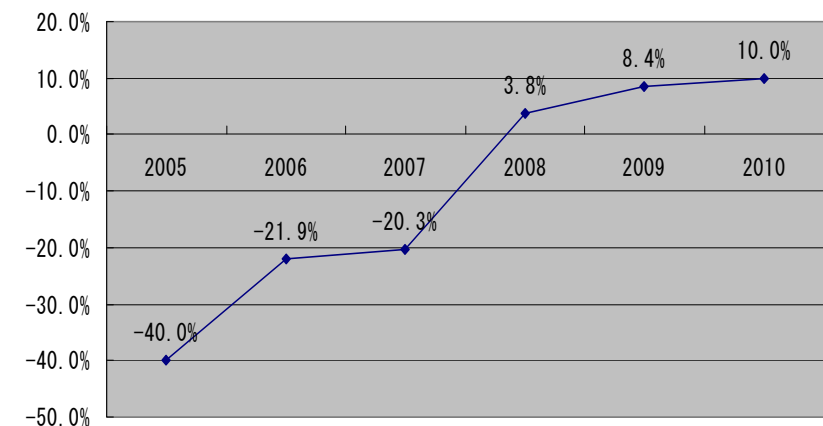
(単位：千円)

|       | 2005      | 2006      | 2007      | 2008      | 2009      | 2010      |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 売上高   | 1,337,059 | 3,277,380 | 2,593,505 | 2,139,054 | 2,417,459 | 3,699,833 |
| 営業利益  | 94,320    | 96,373    | -265,347  | 62,321    | 137,362   | 802,506   |
| 経常利益  | 94,625    | 92,316    | -273,791  | 146,164   | 322,026   | 761,444   |
| 当期純利益 | -534,746  | -717,671  | -525,337  | 81,518    | 204,089   | 369,524   |

売上高営業利益率



売上高当期純利益率



- ・2008年の経営改革以降は着実に収益性が伸張
- ・2009年のファイナンス事業連結により売上高も回復へ
- ・2010年9月期はファイナンス事業のフル連結で利益項目も大幅伸張

再生を経て新体制で最高益を更新中



## 2010年9月期 連結財務状況(B/S)

|        | 2009年9月期  | 2010年9月期   | 対前期比   |
|--------|-----------|------------|--------|
| 流動資産   | 4,138,610 | 4,396,646  | 106.2% |
| 固定資産   | 3,744,033 | 5,669,137  | 151.4% |
| 資産合計   | 7,882,643 | 10,065,783 | 127.7% |
| 短期借入金  | 2,148,483 | 2,343,091  | 109.1% |
| 固定負債   | 1,521,106 | 1,817,807  | 119.5% |
| 負債合計   | 4,082,228 | 4,574,780  | 112.1% |
| 株主資本合計 | 2,760,784 | 4,210,142  | 152.5% |
| 純資産合計  | 3,800,414 | 5,491,003  | 144.5% |

|         |        |        |
|---------|--------|--------|
| 流動比率    | 161.6% | 161.9% |
| 固定比率    | 135.6% | 134.7% |
| 自己資本比率  | 35.0%  | 41.8%  |
| D/E レシオ | 132.7% | 81.4%  |

(単位：千円)

- ・投資育成事業の投資拡大とファイナンス事業の成長により固定資産が増加  
(リース契約の拡大による営業債権が増加の最大要因)
- ・固定負債・短期借入金もファイナンス事業の規模拡大に伴い増加
- ・発行済の転換社債の転換(4億円)、第三者割当増資(7億円)などにより  
自己資本が拡充、国内の普通社債返済と純利益増加からも安全性指標は一層向上

**事業成長に伴う財務基盤の健全な拡大**

A stylized, semi-transparent blue globe with a grid pattern, showing the outlines of continents, serves as the background for the slide.

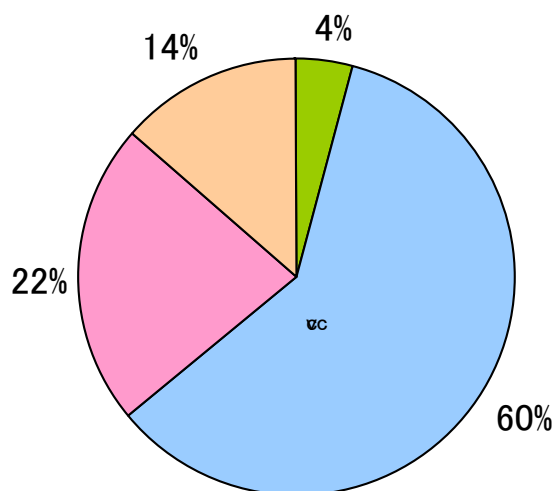
# セグメント別業績と 事業トピックス

# セグメント別売上構成

(単位：千円)

|          | 2010年9月期  |        | (ご参考) 2009年9月期 |        | 前年同期比<br>増減率 |
|----------|-----------|--------|----------------|--------|--------------|
| 投資育成事業   | 155,399   | 4.2%   | 80,313         | 3.3%   | 93.49%       |
| ファイナンス事業 | 2,209,701 | 59.7%  | 514,371        | 21.3%  | 329.59%      |
| コンテンツ事業  | 831,486   | 22.5%  | 1,170,310      | 48.4%  | -28.95%      |
| 物販事業     | 503,245   | 13.6%  | 652,464        | 27.0%  | -22.87%      |
| (合計)     | 3,699,833 | 100.0% | 2,417,459      | 100.0% | 53.05%       |

※ファイナンス事業は2009年9月期は第4四半期のみ連結



■ 投資育成事業 ■ ファイナンス事業 ■ コンテンツ事業 ■ 物販事業

- ・連結によりファイナンス事業の比率が大幅に拡大
- ・投資育成事業売上も事業規模は着実に拡大。
- ・映画・映像事業の売却、国内事業再編で  
コンテンツ事業・物販事業の売上比率は低下
- ・東南アジア売上高の構成は連結売上の59.7%に

東南アジアの売上が国内売上を大幅に上回る



# 投資育成事業の収益貢献

- 運用資産の増加
  - 有価証券を中心に東南アジアへの投資が着実に増加
  - 2009年 約4.8億→2010年14.8億と運用資産が拡大、運用によるセグメント営業利益も1.2億に伸張(前期比32.6倍)

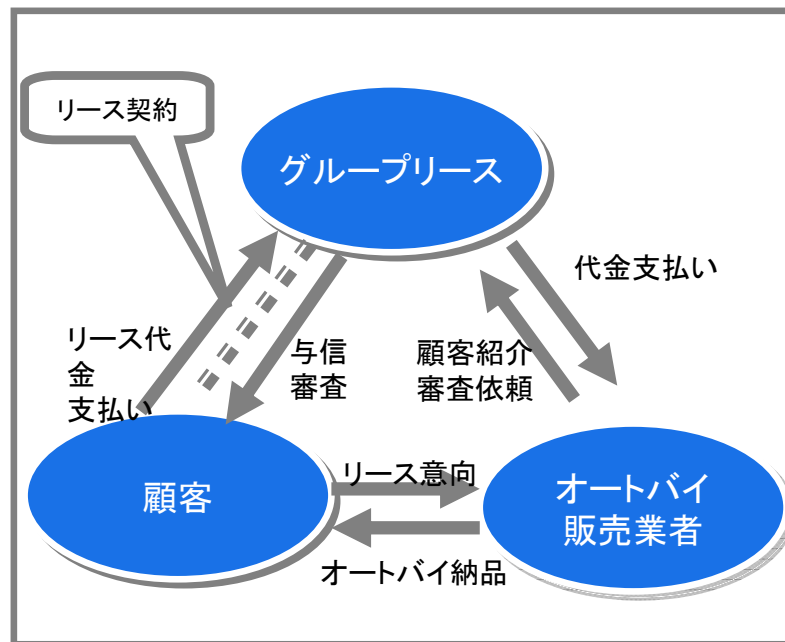
|      | 2009年9月期 | 2010年9月期 | 増減      | 対前期比    |
|------|----------|----------|---------|---------|
| 売上高  | 80,313   | 155,399  | 75,086  | 193.5%  |
| 営業利益 | 3,742    | 122,164  | 118,422 | 3264.7% |

- 投資案件事例: Zeavola Resort 転換社債引受
  - 2010年3月4日、タイの高級リゾートZeavola Resortの保有会社が発行する転換社債8億円(年利8%)を引受ける
  - 利子収入確保とともに、今後株式転換によって同リゾートの約64%の所有が可能に



# ファイナンス事業の躍進

- 良好な経済環境と営業地域拡大策により契約数が着実に増加
- 不良債権減少、回収率の向上により収益性も大幅に向上
- Group Lease PCL(グループリース、GL)について
  - 東南アジア タイでリース事業を展開。業界4位
  - 高収益商材であるオートバイリースに特化、首都バンコク中心に営業
  - タイ証券取引所1部上場(コードGL) 決算期12月
  - 当社は2009年7月より子会社化



## Group Leaseの強み

- 業務のシステム化とサービスの信頼性の高さに強み
  - スピーディで信頼度の高いクレジット承認プロセス
    - 自社のシステム開発部門が開発した顧客・与信管理システムと効率化されたオペレーションで、1時間から1.5時間で審査を完了する洗練したサービスを実現
      - 競合他社は審査に数時間～数日かかるケースも。  
グループリースの顧客は申し込み後、ディーラー店舗内でオプション品等を選ぶ間に契約が成立
  - 迅速な支払手続きでディーラーから高い評価
    - クレジット承認後、バイクディーラーへの支払が3日以内に終了
      - 競合は1週間程度。誠実なファイナンス会社としての評価確立に貢献。
  - 低い貸倒率を実現する回収プロセス
    - 料金滞納顧客を4段階にカテゴライズし、各々のレベルで最適な回収行動を行うことで低い貸倒率を実現(わずか3～4%)
      - 新規参入者や競合は貸倒率が高く収益性の悪化を招いている



## ファイナンス事業の業績

- 2010年9月期ファイナンス事業業績

(単位：千円)

|      | 2009年9月期 | 2010年9月期  | 増減        | 対前期比   |
|------|----------|-----------|-----------|--------|
| 売上高  | 514,371  | 2,209,701 | 1,695,330 | 429.6% |
| 営業利益 | 192,899  | 869,103   | 676,204   | 450.5% |

### 第9期はフル連結で業績に大きなインパクト

- Group Leaseの2010年1月～9月業績

|       | FY2009Q3 (9ヶ月) | FY2010Q3 (9ヶ月) | 対前年比   |
|-------|----------------|----------------|--------|
| 売上高   | 1,610          | 1,686          | 104.7% |
| 当期純利益 | 334            | 515            | 154.2% |

(単位：百万円)

※円換算レートとしては2010年1月～9月月末  
平均値である1/パーツ2.68円を採用

- Group Lease の2010年7月～9月業績

|       | FY2009 Q3 | FY2010Q3 | 対前年比   |
|-------|-----------|----------|--------|
| 売上高   | 518       | 603      | 116.4% |
| 当期純利益 | 152       | 164      | 107.3% |

### 第10期に向け着実な成長と利益確保

## コンテンツ事業・物販事業の再編

- 不採算事業の整理
  - 映画・映像製作事業からの撤退
    - 2010年3月映画・映像制作事業子会社、株式会社エースデュースを売却、同事業からは撤退。
    - 不採算事業の整理で、事業収益が大幅に改善
- 固定費の削減、効率化
  - 物販事業子会社の事業所・店舗移転統合
  - 子会社2社の吸収合併(2010年9月期)
    - 2010年7月株式会社エンジン(物販事業)、株式会社スピニング(コンテンツ事業)を吸収合併
    - 経営効率を改善と、繰越損失活用による税務メリット向上

事業選別とコスト改善を経て、安定収益を目指す

# コンテンツ事業・物販事業の経営成績

## ・ コンテンツ事業

(単位：千円)

|      | 2009年9 月期 | 2010年9 月期 | 増減        | 対前期比   |
|------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 売上高  | 1,170,310 | 831,486   | ▲ 338,824 | 71.0%  |
| 営業利益 | 44,231    | -12,167   | ▲ 56,398  | -27.5% |

- ・映画・映像製作事業の売却にともない大幅減収に。
- ・高収益事業であるカードゲームのロイヤリティ収入も商品の端境期にあたり低調。
- ・子会社整理、不採算事業撤退の結果、下半期は大幅に収支が改善、下期の営業利益は44百万円と黒字を確保するも、通期では赤字にとどまる。

## ・ 物販事業

|      | 2009年9 月期 | 2010年9 月期 | 増減        | 対前期比  |
|------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 売上高  | 652,464   | 503,245   | ▲ 149,219 | 77.1% |
| 営業利益 | -15,936   | -11,415   | 4,521     | 71.6% |

- ・固定費削減に取り組み店舗等を縮小、減収となるも損失幅が縮小。
- ・採算構造改善の結果、下半期は売上高241百万円、営業利益56万円と営業黒字を確保。



A stylized, semi-transparent blue globe with a grid pattern, showing the outlines of continents, serves as the background for the slide.

# 事業方針と 取り組みのご紹介

# 事業方針

## • The Asian Value Innovator

- 2010年3月 東南アジアの事業拡大へより注力する事業方針を発表
- 東南アジアの活況を活かした成長志向を続けつつ、第10期は今後の成長を果たすための海外での経営体制整備がテーマに
- 2010年までの事業の絞りこみを経て、日本国内は新規事業育成とビジネスモデルのシフトをはかる新たな段階へ

### 東南アジア

#### 経営体制の強化

事業拡大にあわせ  
継続的な成長を果たすための  
体制整備に注力

- 東南アジア事業における企業ガバナンス、統制の強化
- 新たな投資対象事業の発掘
- 既存事業の拡大推進

### 日本

#### 新事業の育成

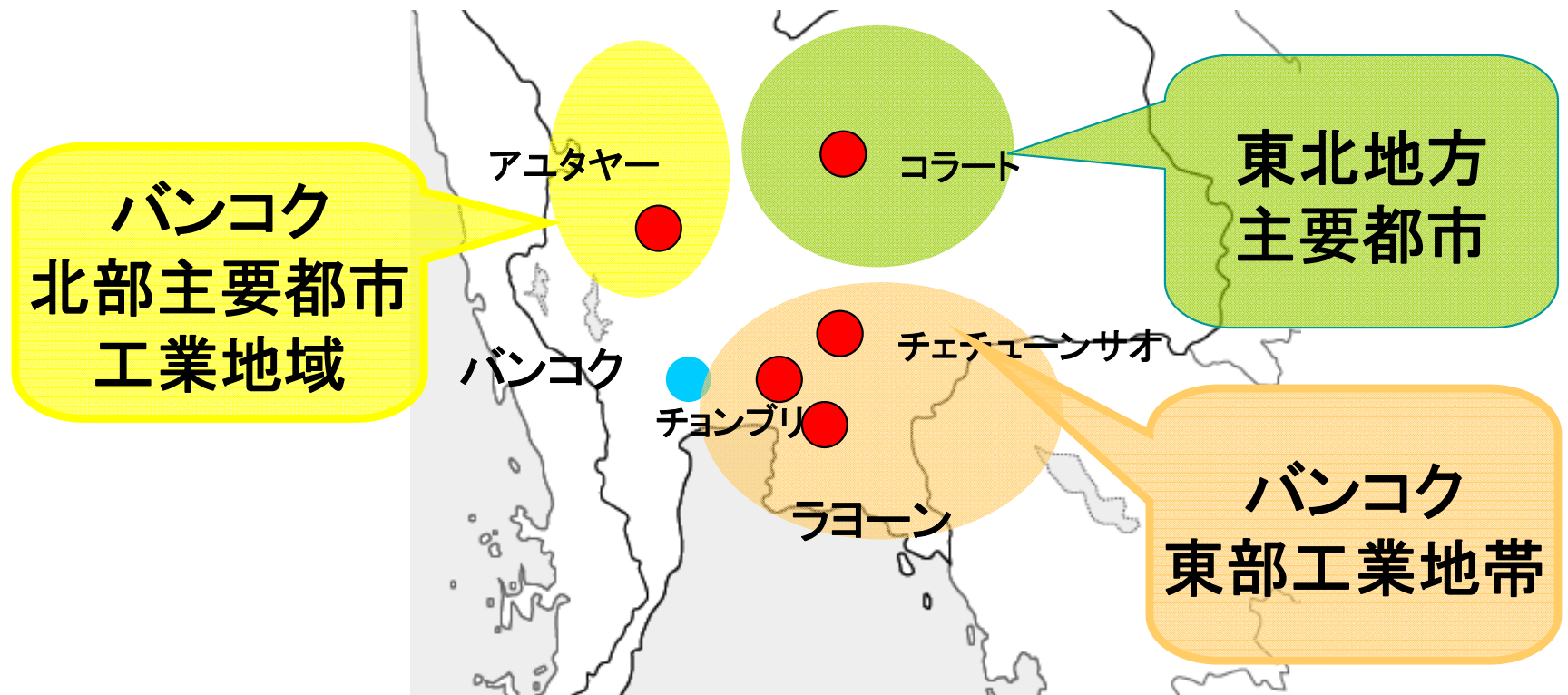
リストラクチャリングを経て、  
新たなビジネスモデルへの  
シフトを加速

- 経営環境に適応する  
ビジネスモデルへの展開
- 新規事業の育成



## 東南アジア:タイ国内リース営業地域の拡張

- Group Lease PCL
  - タイ国内地方都市へ展開、営業拠点開設とオークション会場開設により、営業力・収益力強化へ
  - オートバイディーラーとの関係確立を通じて、需要拡大と地域内シェア獲得を図る



- ・バンコク中心の営業エリアから地方都市の売上構成拡大に注力
- ・顧客基盤を工業都市住民から地方都市・農村部住民へと拡大



# 国内新規事業:スポーツ関連事業に参入

- 株式会社ペプトワンニュートリション
  - 事業開発部門が中心となり、事業化テストを行っていたスポーツ関連のプロジェクトを2010年10月1日完全子会社に。傘下で本格的な事業育成へ。
  - アスリート向け高機能サプリメントの開発・販売とスポーツイベント企画運営の2軸で事業展開



スポーツイベント  
Pepto Project  
In 千葉県鋸南町



高機能アミノ酸系  
サプリメント  
PEPTO ONE

PEPTO ONE



## 事業育成: 邦楽市場で独自の展開

- スピニング事業部（音楽関連事業）

- 従来の洋楽インディーズレーベル事業に加え、新たに邦楽インディーズ事業にも展開
- 初の国内アーティスト「ALDIOUS」がデビュー、1<sup>st</sup>アルバムはオリコンランキング15位（インディーズ1位）のスマッシュヒットに
- 特定顧客カテゴリーにフォーカスし、CD販売に加えて物販・配信などを組み合わせるビジネスモデルを展開
- 2008年設立から3期目で単年度営業黒字を達成



国内アーティスト第一弾  
「ALDIOUS」



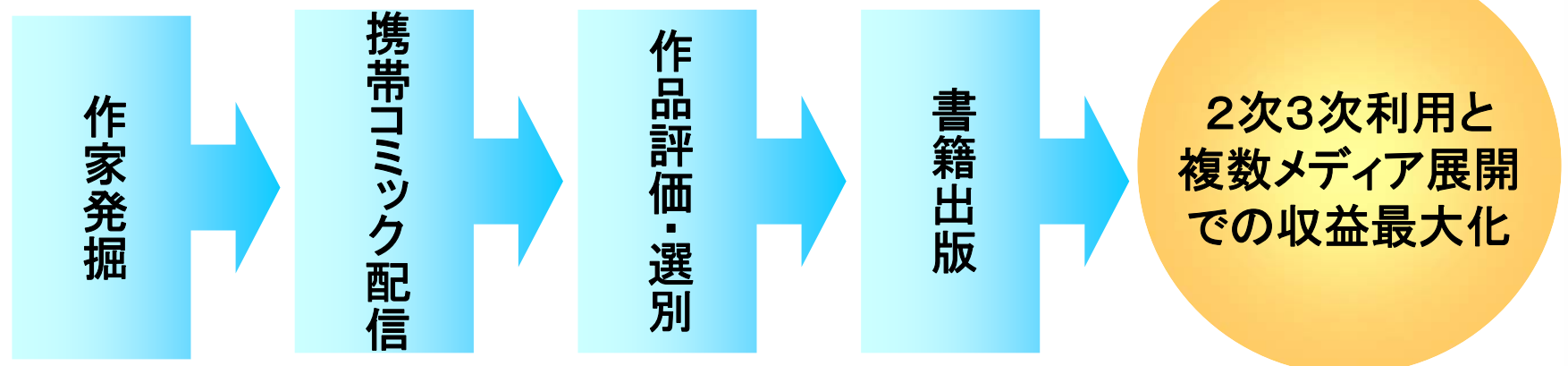
# 電子書籍・配信市場での挑戦

- ブレインナビ事業部

- 電子書籍関連のプロジェクトが収益化へ

- 2009年より開始した新規事業である書き下ろしコミックの携帯配信事業は収益事業化が視野に
    - 2008年より開始した出版事業との構成で配信から開始する新しいビジネスモデルの確立を図る
    - 立ち上がる電子書籍市場に向けた新たなプロジェクトにも積極的に挑戦中

## 【コミック配信を通じたビジネス展開】





## 日本橋到新オフィスを移転開設

- 2010年11月中央区日本橋到新オフィスを開設、本部機能と国内主要事業部を移転
  - 改革と再編で取り組んだ国内事業の固定費圧縮に区切り
  - 新事業拡大に必要なフロア拡張を行なうとともに、フロア単価を抑え、コスト抑制との両立を図る



## 当社グループの課題について

- 成長に伴う経営管理体制強化
  - 海外事業の急拡大に対応した、経営管理体制の整備が重要に。
  - 海外法人への日本基準での内部統制の徹底など個別課題についても対応充実を図る。
- 人的資源の強化
  - 事業領域拡大に伴うマネジメント層の強化、新規事業等プロジェクト型業務に対応するスタッフの育成を、就労環境整備等と合わせて推進中。

A stylized, semi-transparent blue globe with a grid pattern, showing continents and oceans, serves as the background for the slide.

# 業績予想と株主還元について



## 2011年9月期(第10期)の連結業績予想

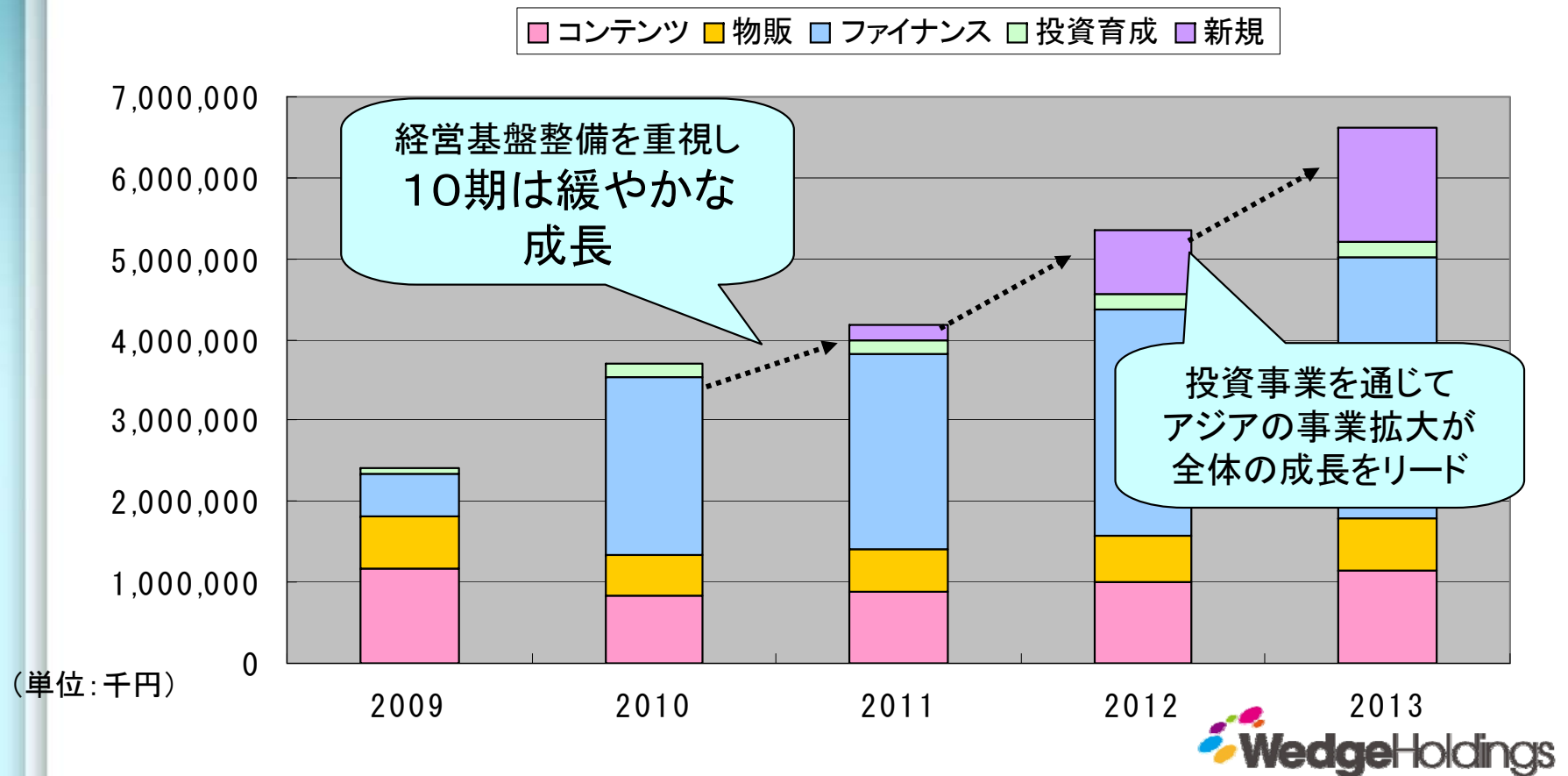
- 連結通期業績予想

|       | 2010年実績   | 2011年予想   | 増減      | 増減率    |
|-------|-----------|-----------|---------|--------|
| 売上高   | 3,699,833 | 4,100,000 | 400,167 | 110.8% |
| 営業利益  | 802,506   | 1,000,000 | 197,494 | 124.6% |
| 経常利益  | 761,444   | 950,000   | 188,556 | 124.8% |
| 当期純利益 | 369,524   | 400,000   | 30,476  | 108.2% |

- ファイナンス事業は契約数増加、売上・利益の着実な拡大を見込む。
- 国内事業の整理が完了、既存事業の売上は増加へ向かうも出版関連事業の電子書籍シフトなど、新規事業の育成に注力し回復は緩やかに。
- 投資育成事業の東南アジアを中心とした大規模投資案件は、投資決定時に収益への影響が発生しうるため、今後も業績修正要因に。

## 今後の事業拡大イメージ

- 長期的には東南アジアを中心した事業拡大と投資が業績を牽引、国内の安定成長と両輪にした業績拡大を図る
  - 第10期は相対的に緩やかな成長で体制整備を重視。
  - ファイナンス事業に続く東南アジアでの事業機会獲得を目指す。
  - 再編を終えた国内事業は育成する新規事業を通じた売上成長を図る。



# 株主還元に関する方針

- 業績に基づく安定的な評価確立、株価水準の回復をめざす
  - IR活動の充実や株式評価改善への取り組みを継続的に実施中
    - YahooファイナンスなどWebサイトでの情報提供を拡充。
    - IR関連報道機関での取材対応により、関連記事掲載数も増加。
    - 時価総額、株主数、流動性ともに前期比で大幅に向上したことから、機関投資家への1on 1ミーティングを開始。
    - 浮動株比率改善など株式の流動性向上など、中長期での株式評価向上への基盤を整備中。
- 安定配当を確保しつつ業績拡大に応じた見直しも実施
  - 東南アジアを中心にした今後の成長に向けた資金需要を勘案し、予定配当は1株100円を維持
  - 今後大幅な業績の変動があった場合の配当見直しを方針に

(ご参考)

2009年9月期

|            |        |
|------------|--------|
| 平均株価       | 9,208円 |
| 1日あたり平均出来高 | 62株    |
| 浮動株比率      | 5.2%   |

2010年9月期

|            |         |
|------------|---------|
| 平均株価       | 14,932円 |
| 1日あたり平均出来高 | 1,174株  |
| 浮動株比率      | 7.7%    |



# ありがとうございました

弊社IRに関するお問い合わせ先

株式会社ウェッジホールディングス  
経営管理本部

TEL: 03-6225-2161

FAX: 03-3548-0566

[wedge-ir@wedge-hd.com](mailto:wedge-ir@wedge-hd.com)

<http://www.wedge-hd.com>

※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を  
保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その  
内容の正確性および確実性を保証するものではありません。